

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representation of  
The original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 03-167666

(43)Date of publication of application : 19.07.1991

(51)Int.Cl.

G06F 15/40

(21)Application number : 01-310243

(71)Applicant : NIPPON TELEGR & TELEPH CORP  
<NTT>

(22)Date of filing : 28.11.1989

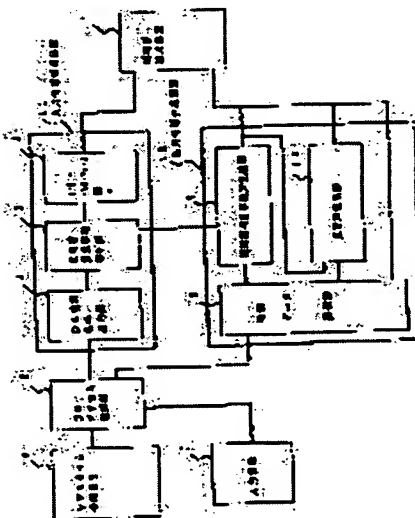
(72)Inventor : HIGASHIDA MASANOBU  
NISHIYAMA TOSHIO  
OUCHI YUKIO  
OBARA HISASHI  
SHIMAZAKI KATSUMI

## (54) INFORMATION GUIDING/OFFERING METHOD

## (57)Abstract:

PURPOSE: To always guide and provide the latest information to the users by holding the time-based information as an information data base, analyzing the input request conditions of users, and reading the adaptable conditions out of the data base to output the conditions in the suitable Japanese sentences.

CONSTITUTION: If the input voice information can be outputted in voices, the sentence information of a sentence form is converted into the voices via a sentence/voice conversion part 10 for production of the information. This information is outputted to a user terminal equipment 1. If the result of detection is not identical with the information of a sentence form and the output of voices is possible, the result of the detection is outputted to the equipment 1 via a Japanese sentence generating part 9. If the output of voices is possible, a sentence showing the contents of the output information is produced via the parts 9 and 10 and outputted to the equipment 1. Then the result which is retrieved out of a real time information data base DB 6 as the data accordant with the user request is stored in a retrieved data store part 8 and then outputted to the equipment 1 in a table form with an output request. The data if obtained in a sentence form is outputted as it is and then converted into the voices if desired via the part 10.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

✓ [Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision  
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

• [Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

訂正有り

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平3-167666

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)7月19日

G 06 F 15/40

5 0 0 Z

7218-5B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全9頁)

⑮ 発明の名称 情報案内・提供方法

⑯ 特 願 平1-310243

⑰ 出 願 平1(1989)11月28日

⑱ 発 明 者 東 田 正 信 東京都千代田区内幸町1丁目1番6号 日本電信電話株式会社内

⑲ 発 明 者 西 山 敏 雄 東京都千代田区内幸町1丁目1番6号 日本電信電話株式会社内

⑳ 発 明 者 大 内 幸 雄 東京都千代田区内幸町1丁目1番6号 日本電信電話株式会社内

㉑ 発 明 者 小 原 永 東京都千代田区内幸町1丁目1番6号 日本電信電話株式会社内

㉒ 出 願 人 日本電信電話株式会社 東京都千代田区内幸町1丁目1番6号

㉓ 代 理 人 弁理士 秋田 収喜

最終頁に続く

#### 明細書

#### 1. 発明の名称

情報案内・提供方法

#### 2. 特許請求の範囲

(1) 道路の混雑状況、天候、株式市況などの時々刻々変化する時刻依存型情報を表形式で表されるデータとして入力し、この入力された情報を情報データベースとして保持し、複数の入力手段から入力された利用者の要求条件を解析し、その条件に適合した情報を前記情報データベースの中から検索して、その内容をそのまま蓄積するとともにその内容を適切に表現する日本語文に変換し、その日本語文を利用者端末の出力手段に応じて変換し、その情報をリアルタイムマルチメディアで利用者に案内・提供することを特徴とする情報案内・提供方法。

#### 3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、道路の混雑状況、天候、株式市況などの時々刻々変化する情報データベース（以下、

DBという）の内容を蓄積し、複数の入力手段から入力された利用者の要求条件を解析し、その条件に適合した情報を情報DBの中から検索して、その内容をそのまま蓄積するとともにその内容を適切に表現する日本語文に変換し、利用者端末の出力手段に応じた変換を行い情報を案内・提供するリアルタイムマルチメディア情報提供方法に関する。

〔従来技術〕

従来、道路の混雑状況、天候、株式市況などの時々刻々変化する情報をもとに、情報案内文を手で作成し、この作成した情報案内文を一旦提供情報DBとして格納した後、利用者からの検索要求に応じて情報を提供するか、または人手あるいは文章朗読装置により音声に変換した後、テレホンサービスなどの提供形態で情報を提供していた。

また、検索した情報DBの内容をデータの羅列、表形式、図形式等で表示装置に表示するか、データを 声等で羅列的に提供していた。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかしながら、前記従来の情報提供方法では、情報文を作成・録音した時刻と利用者が情報を入手する時刻には、時間差があるためすでに情報の内容が変化している可能性がある。このため、利用時刻の情報に対応した適切な情報が利用者に提供できないという問題があった。

また、どうしても汎用的・広範的な情報提供となるため、利用者が個別に必要とする情報がすべて得られないか、または必要とする以外の情報が含まれているために、利用者にとって必要かつ十分な情報を得ることができないという問題があった。

また、利用者は断片的に与えられる情報から自分で内容を理解するか、または表示画面から必要な情報を自分で読み取る方法等の情報を得る必要があった。このため、表示画面から目を離す必要のあるドライバーや、電話などの表示画面の無い情報入手手段しか持たない利用者には情報を提供することができないという問題があった。

本発明は、前記問題点を解決するためになされ

換し、その日本語文を利用者端末の出力手段に応じて変換し、その情報をリアルタイムマルチメディアで利用者に案内・提供することを最も主要な特徴とする。

前記情報案内・提供方法を実施する手段は、道路の混雑状況、天候、株式市況などの時々刻々変化する時刻依存型情報を表形式で表されるデータとして入力する手段と、この入力された情報を情報DBとして保持する手段と、利用者の要求を音声または文字列で入力する手段と、該入力された利用者の要求を通常の日本語の文字列に変換する手段と、日本語文を解析して利用者の要求事項を抽出する手段と、該抽出した利用者の要求事項を前記情報DB検索式に変換する手段と、該検索式に基づいて情報DBから必要な情報を検索する手段と、検索されたデータを一時的に蓄積する手段と、表形式のデータ内容を適切な日本語表現に変換する手段とを備えたものである。

#### 〔作用〕

前述の本発明の情報案内・提供方法によれば、

たものである。

本発明の目的は、時々刻々変化する情報DBの内容を基に、利用者の要求時に利用者に必要な情報のみを即時に検索し、その内容をそのまま提供すると同時に、適切な日本語表現により利用者に理解し易い形態に変換し、それを日本語の形式(文字列)または音声により利用者に提供することができる技術を提供することにある。

本発明の前記ならびにその他の目的と新規な特徴は、本明細書の記述及び添付図面によって明らかにするであろう。

#### 〔課題を解決するための手段〕

前記目的を達成するために、本発明は、情報案内・提供方法において、道路の混雑状況、天候、株式市況などの時々刻々変化する情報を情報データベースに表形式で入力して蓄積し、複数の入力手段から入力された利用者の要求条件を解析し、その条件に適合した情報を前記情報データベースの中から検索して、その内容をそのまま蓄積するとともにその内容を適切に表現する日本語文に変

時々刻々変化する時刻依存型情報を表形式で表されるデータとして入力し、この入力された情報を情報DBとして保持し、利用者から音声または日本語文の形式で入力される情報に対する要求を解析し、利用者が必要とする情報の内容を決定して、情報DBから必要な情報を取り出し、それらの情報の内容を適切な日本語表現に変換して、それを出力装置に応じて日本語文または音声に加工して表示、出力するので、時々刻々変化する情報DBの内容の内、利用者の要求時に利用者に必要な情報のみを、適切な日本語表現により利用者に理解し易い形態で、日本語の形式(文字列)または音声により利用者に提供することができる。

これにより、利用者は、従来の情報提供手段に加えて、常に最新の情報を適切な日本語の文章の形態で入手できるために、現在の情報内容を的確に理解できるとともに、適切な判断をすることができる。

また、音声による出力を利用すると、運転手などの自分の目の前の視界から目を離せない利用者

に利便を提供できる。

〔実施例〕

以下、本発明の一実施例を図面を用いて具体的に説明する。

第1図は、本発明の情報案内・提供方法を実施する装置の一実施例の概略構成を示すブロック図である。

第1図において、1は利用者端末装置であり、利用者の要求を入力し、その要求に対する結果情報を出力する。この利用者端末装置1は、電話機（自動車電話機を含む）、ファクス端末装置、パーソナルコンピュータ（PC）、キャブテン端末装置等、利用者の要求事項が入力できる装置であればよい。

2はユーザインターフェース部（音声認識部、文字認識部を含む）であり、利用者の要求した表現内容を文字列に変換する。

3は利用者要求事項解析部であり、利用者の要求内容を解析する。

4はDB検索条件出力部であり、利用者の要求

リアルタイム道路情報DBの内容の構成を示す図、

第3A図、第3B図は、利用者の要求の解析例を示す図、

第4A図、第4B図は、利用者の要求に基づき検索された情報DBの例を示す図、

第5A図、第5B図は、情報DBから生成される情報案内文の基本文の例を示す図、

第6A図、第6B図は、利用者が理解し易いように編集された情報案内文の例を示す図

第7図は、本実施例の動作手順を説明するためのフローチャートである。

道路状況の情報DBを例に、以下第1図、第2図、第3A図、第3B図、第4A図、第4B図、第5A図、第5B図、第6A図、第6B図、第7図を使用して本実施例の情報案内・提供方法を詳細に説明する。

まず、本実施例の情報案内・提供方法に必要な情報を蓄えるリアルタイム情報DBについて説明する。

リアルタイム情報DBの登録・更新作業は、リ

事項にもとづいて、情報DBを検索する検索式を出力する。

5は情報DBへの入力・検索等を制するDBアクセス制御部であり、6は時々刻々変化する情報を表形式で蓄積するリアルタイム情報DB（データベース）である。

7は時々刻々変化する情報を入力するための入力装置であり、8は情報DBから検索された情報を格納しておく検索データ蓄積部である。

9は情報案内日本語文生成部であり、検索データから利用者の要求にもとづいて適切な情報案内文を生成する。

10は文音声変換部であり、出力されたデータの値、あるいは、生成された日本語文を音声に変換する。

11は入力情報解析装置であり、利用者の入力情報を解析する。

12は出力情報生成装置であり、利用者への出力情報を作成し、出力する装置に対応して出力する。

第2図は、リアルタイム情報DBの一実施例の

リアルタイム情報を収集、保有している情報入力者がリアルタイム情報入力装置7を使用して入力する。入力された情報は、DBアクセス制御部5に送られ、リアルタイム情報DB6に送られ、登録・更新が行われた後、格納される。

道路情報を例にしたリアルタイム情報DB6の内容の例を第2図に示す。

次に、本実施例の情報案内・提供方法の手段を第1図及び第7図に従って説明する。

利用者は、利用者端末装置1を通じて要求事項を入力する（ステップ101）。

音声で入力された場合には音声信号が、ファクスで入力された場合には走査信号が、PC端末等の文字入力が可能な場合にはキャラクターコードがそれぞれユーザインターフェース部2に送られる。

ここでは、いずれかの方法により「東名高速道路の混雑状況を知りたい。」という入力が入力されたとする。

ユーザインターフェース部2では、これらの入力

信号に応じた認識装置（音声の場合は音声認識装置、ファクスの場合は文字認識装置）を用いて文字列に変換する。音声認識装置の場合は「とうめいこうそくどうろのこんざつじょうきょうをしりたい」という音声認識の結果から漢字かな混じり文が出力される。

ここでは、入力された要求事項が「東名高速道路の混雑状況を知りたい」という文字列に変換される。この文字列は利用者要求解析部3に送られる。

利用者要求解析部3では、利用者の要求事項が解析される（ステップ102）。この場合、「東名高速道路」の「渋滞情報」が知りたいということが解析結果として出力される。この解析結果の例を第3A図に示す。

この結果をDB検索条件出力部4に送る。DB検索条件出力部4では、利用者要求事項に応じたDB検索式を作成する（ステップ103）。この検索式は、DBアクセス制御部5を介してリアルタイム情報DB6に送られ必要な情報が検索され

09)。

また、前記ステップ105の検出結果が、文形式の情報でない（NO）場合には、その抽出された情報が音声出力可能か否かを検出する（ステップ110）。

その検出の結果がノー（NO）、すなわち、抽出された情報が音声出力不可能であれば、その結果を情報案内日本語文生成部9を通して利用者端末装置1へ出力する（ステップ111）。

前記ステップ110の検出結果がイエス（YES）、すなわち、抽出された情報が音声出力可能であれば、情報案内日本語文生成部9及び文音声変換部10により出力情報の内容を伝える文を作成・複合化し（ステップ112）、それを利用者端末装置1へ出力する（ステップ113）。

つまり、本実施例では、前記リアルタイム情報DB6の内から、利用者要求に合致するデータとして検索された結果は、出力情報生成装置12の検索データ蓄積部8に送られ、一時蓄積される。この蓄積されたデータは、そのままの出力を要求さ

る（ステップ104）。

この場合は、第2図に示されたリアルタイム情報DBの内から、利用者要求に合致するデータが第4A図のような形式で得られる。

検索された結果は、出力情報生成装置12の検索データ蓄積部8に送られる。

そして、出力情報生成装置12では、前記抽出された情報が文形式か否かを検出し（ステップ105）、その情報が文形式であれば（YES）、次に、その抽出された情報が音声出力可能か否かを検出する（ステップ106）。

その検出の結果がノー（NO）、すなわち、抽出された情報が音声出力不可能であれば、その結果を情報案内日本語文生成部9を通して利用者端末装置1へ出力する（ステップ107）。

前記ステップ106の検出結果がイエス（YES）、すなわち、抽出された情報が音声出力可能であれば、文音声変換部10により文形式の文情報を音声に変換した情報を作成し（ステップ108）、それを利用者端末装置1へ出力する（ステップ1

れる場合は、その表形式のまま、情報案内日本語文生成部9を通して利用者端末装置1への出力として提供される。

この他、データが文の形式で得られる場合は、ファクス端末の場合は、そのままの形式で出力するが、音声で出力する必要がある電話機等の場合は、文音声変換部10に送られ、音声に変換してから利用者端末装置1に出力する。

データが第4A図のような表形式のデータとして得られる場合は、表形式のままディスプレイに表示することを要求された場合は表形式のまま出力するが、利用者端末の制約等のために日本語文または、音声で利用者に情報を伝える必要がある場合は、この内容を適切な日本語文に変換する必要がある。この場合には、情報は情報案内日本語文生成部9に送られる。情報案内日本語文生成部9では、データから文を生成する機能を有している。

例えば、「＜道路名＞＜車線＞＜IC（インターチェンジ）名＞では＜渋滞距離＞キロ渋滞して

います。」、「<道路名><車線><IC名>では<理由>のため、<渋滞距離>キロ渋滞しています。」等の分野対応の基本文型を文例辞書に用意しておき、与えられたデータ（道路名、車線名、IC名、渋滞距離）に応じて適切な例文を検索して基本文例を生成する。（関連出願：西山、東田「メニュー選択による定型文生成方式」）このようにして得られた日本語文の例を第5A図に示す。検索の結果が得られる情報が複数の場合は、複数の基本文が得られるため、これらを文複合化機能を用いて同一の基本文型から生成される複数の文を、名詞句を並列に並べたり、同一表現の部分を省略するなど、読み易い（聞き易い）日本語に変換する。これに必要な前置き、後書き等をつけ加えて最終的な情報提供文として編集する。

この例を第6A図に示す。この文章は、ディスプレイ等の表示画面には、文字情報として利用者端末装置1に出力する他、音声に変換して提供する場合、文音声変換部10に送って音声に変換した後利用者端末装置1に出力する。

できる。

また、音声による出力を利用すると運転手などの自分の目の前の視界から目を離せない利用者に利便を提供できる。

前記実施例では、道路のトラヒック情報、渋滞情報、交通規制情報等の道路交通情報について本発明を適用した例で説明したが、本発明は、その他にも、気象、天気情報、スポーツのスコアカード、結果（成績）情報などのスポーツ情報、座席の空き状態、チケットの販売状況などの劇場／催し物情報、株価情報、商品取引等の証券取引情報などの情報に対する利用者の要求に応じた情報のみを日本語に編集し、利用者の使用する端末に応じた出力形態により提供するサービスにも適用することができる。

以上、本発明を実施例にもとづき具体的に説明したが、本発明は、前記実施例に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲において種々変更可能であることは言うまでもない。

〔発明の効果〕

また、必要に応じて利用者端末に検索した結果が得られたデータを表 さま表示することも可能である。

利用者の要求が「東名高速道路の厚木インターチェンジの交通情報を知りたい」という場合には、第3B図、第4B図、第5B図及び第6B図に示すように、解析、検索、文生成、文編集が行われ、編集した日本語文が生成され提供される。このように利用者からの異なる表現に対応して検索される結果が異なることから、生成される基本文、編集された文表現が異なるが、あらかじめ文章を用意しておく必要はない。

このように、本実施例によれば、利用者の要求に応じて即時に得られた検索結果を利用者が理解し易い（読み易い、聞き易い）日本語文の形式に変換して提供することが可能となる。

これにより、利用者は、従来の情報提供手段に加えて、常に最新の情報を適切な日本語の文章の形態で入手できるために、現在の情報内容を的確に理解できるとともに、適切な判断をすることが

以上、説明したように、本発明によれば、利用者は、従来の情報提供手段に加えて、常に最新の情報を適切な日本語の文章の形態で入手できるために、現在の情報内容を的確に理解できるとともに、適切な判断をすることができる。

また、音声による出力を利用すると運転手などの自分の目の前の視界から目を離せない利用者に利便を提供できる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の情報案内・提供方法を実施する装置の一実施例の概略構成を示すブロック図、

第2図は、リアルタイム情報DBの内容の構成例を示す図、

第3A図、第3B図は、利用者の要求の解析例を示す図、

第4A図、第4B図は、利用者の要求に基づき検索された情報DBの例を示す図、

第5A図、第5B図は、情報DBから生成される情報案内文の基本文の例を示す図、

第6A図、第6B図は、利用者が理解し いよ



第3A図

| 要求項目  | 具体値    |
|-------|--------|
| 道路・場所 | 東名高速道路 |
| 情報    | 渋滞情報   |

うに編集された情報案内文の例を示す図。

第7図は、本実施例の動作手順を説明するためのフローチャートである。

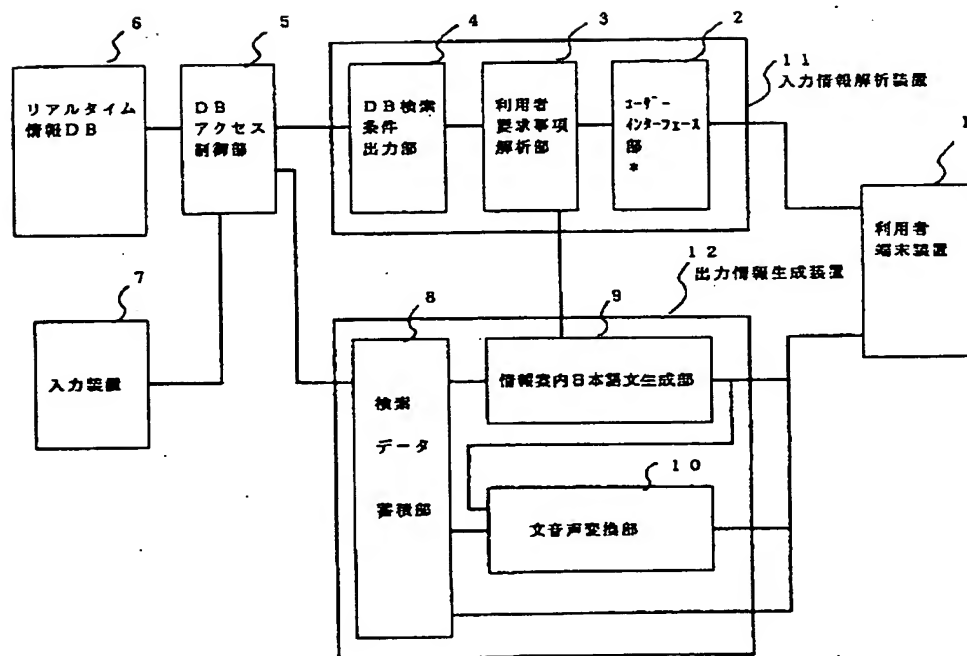
図中、1…利用者端末装置、2…ユーザインターフェース部、3…利用者要求事項解析部、4…DB検索条件出力部、5…DBアクセス制御部、6…リアルタイム情報DB、7…入力装置、8…検索データ蓄積部、9…情報案内日本語文生成部、10…文音声変換部、11…入力情報解析装置、12…出力情報生成装置。

第3B図

| 要求項目  | 具体値               |
|-------|-------------------|
| 道路・場所 | (東名高速道路) & (厚木IC) |
| 情報    | (渋滞情報) & (交通規制情報) |

代理人 弁理士 秋田収喜

第1図



第2図

| 時刻 |      | 11:00 |            |      |      |      |              |      |        |
|----|------|-------|------------|------|------|------|--------------|------|--------|
| #  | 道路名称 | 車線    | 区          | 間    | 天候   | 路面   | 渋滞情報         | 長さ   | 交通規制情報 |
| T1 | 東名高速 | 上り    | 用賀         | ---- | 雨    | 濡れ   | 渋滞(自然)       | 1.0  |        |
| T2 | 東名高速 | 上り    | 厚木         | ---- | 雨    | 濡れ   | 渋滞(作業)       | 5.0  | 一車線規制  |
| T3 | 東名高速 | 上り    | 鮎沢PA       | 大井松田 | 雨    | 濡れ   | 渋滞(自然)       | 10.0 |        |
| T4 | 東名高速 | 上り    | 御殿場        | ---- | 雨    | 濡れ   | ----         | 0.0  |        |
| T5 | 東名高速 | 上り    | 沼津         | ---- | 曇り   | 濡れ   | ----         | 0.0  |        |
| T6 | 東名高速 | 上り    | 清水         | ---- | 曇り   | 乾燥   | ----         | 0.0  |        |
| T7 | 東名高速 | 下り    | XXバス<br>停  | ---- | 曇り   | 乾燥   | 渋滞(事故)       | 3.5  |        |
| T8 | 東名高速 | 下り    | 静岡         | ---- | 晴    | 乾燥   | ----         | 0.0  |        |
|    | ---- | ----  | ----       |      | ---- | ---- | ----         | ---- | ----   |
| H1 | 名神高速 | 下り    | 一宮         | 岐阜羽島 | 晴    | 乾燥   | 渋滞(舗装<br>工事) | 2.5  | 走行規制   |
| H2 | 名神高速 | 下り    | 京都南I<br>付近 | ---- | 晴    | 乾燥   | 渋滞(事故)       | 10.0 | 通行止め   |
|    | ---- | ----  | ----       |      | ---- | ---- | ----         | ---- | ----   |
| C1 | 中央高速 | 上り    | XX         | ---- | 晴    | 乾燥   | ----         | ---- | ----   |
|    | ---- | ----  | ----       |      | ---- | ---- | ----         | ---- | ----   |

第4A図

| 時刻 |      | 11:00 |      |      |    |    |        |      |        |
|----|------|-------|------|------|----|----|--------|------|--------|
| #  | 道路名称 | 車線    | 区    | 間    | 天候 | 路面 | 渋滞情報   | 長さ   | 交通規制情報 |
| T1 | 東名高速 | 上り    | 用賀   | ---- | 雨  | 濡れ | 渋滞(自然) | 1.0  |        |
| T2 | 東名高速 | 上り    | 厚木   | ---- | 雨  | 濡れ | 渋滞(作業) | 5.0  | 一車線規制  |
| T3 | 東名高速 | 上り    | 鮎沢PA | 大井松田 | 雨  | 濡れ | 渋滞(自然) | 10.0 |        |
| T7 | 東名高速 | 下り    | XXバス | ---- | 曇り | 乾燥 | 渋滞(事故) | 3.5  |        |

第4B図

| 時刻 |      | 11:00 |    |      |    |    |        |     |        |
|----|------|-------|----|------|----|----|--------|-----|--------|
| #  | 道路名称 | 車線    | 区  | 間    | 天候 | 路面 | 渋滞情報   | 長さ  | 交通規制情報 |
| T2 | 東名高速 | 上り    | 厚木 | ---- | 雨  | 濡れ | 渋滞(作業) | 5.0 | 一車線規制  |

第5A図

★道路情報生成文

T1  
 <東名高速道路><上り線><用賀>では<1>キロの渋滞しています。  
 T2  
 <東名高速道路><上り線><厚木>では<作業>のため、<5>キロ渋滞しています。  
 T3  
 <東名高速道路><上り線><鮎沢>と<大井松田>の間で、<10>キロ渋滞しています。  
 T7  
 <東名高速道路><下り線><XXバス停>では<事故>のため<3. 5>キロ渋滞しています。

第5B図

★道路情報生成文

T2  
 <東名高速道路><上り線><厚木>では<作業>のため、<5>キロ渋滞しています。  
 T2  
 <東名高速道路><上り線><厚木>では<作業>のため、<一車線規制>されています。

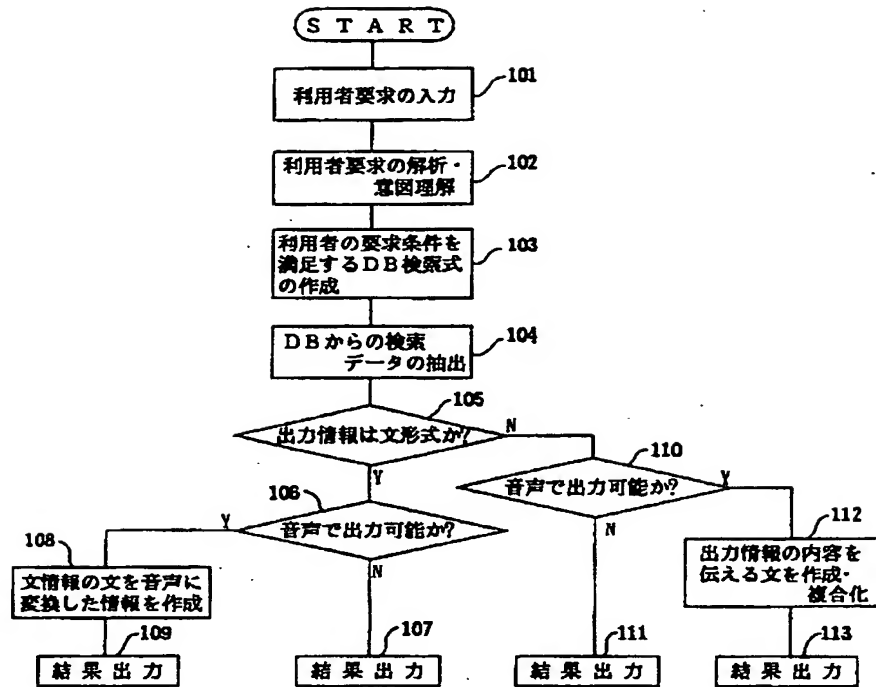
第6A図

東名高速道路の渋滞状況をお伝えします。  
 東名高速道路上り線では、厚木で作業のため5キロ、鮎沢と大井松田の間で10キロ渋滞しています。  
 下り線ではXXバス停付近で事故のため3. 5キロ渋滞しています。  
 以上、渋滞状況をお知らせしました。

第6B図

東名高速道路の厚木IC付近の交通情報をお伝えします。  
 東名高速道路上り線では、厚木で作業のため、一車線規制されており、5キロ渋滞しています。  
 以上、交通情報をお知らせしました。

第 7 図



第1頁の続き

⑦発明者 島崎 勝美 東京都千代田区内幸町1丁目1番6号 日本電信電話株式会社内

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成8年(1996)12月24日

【公開番号】特開平3-167666

【公開日】平成3年(1991)7月19日

【年通号数】公開特許公報3-1677

【出願番号】特願平1-310243

【国際特許分類第6版】

G06F 17/30

17/00

【FI】

G06F 15/403 370 Z 9194-5L

15/40 370 Z 9194-5L

15/20 F 9069-5L

Z 9069-5L

### 手続補正書

平成7年10月24日

特許庁長官殿

1. 事件の表示

平成1年特許願第910243号

2. 発明の名称

情報案内・提供方法

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 東京都新宿区西新宿三丁目19番2号

(平成7年10月20日住所変更済(一括))

名称 (422) 日本電信電話株式会社

4. 代理人

住所 〒116 東京都荒川区西日暮里6丁目53番3号

藤井ビル201号

電話 03-3893-6221

氏名 (8355) 弁護士 秋田 収

5. 補正命令の日付

審査請求時同時補正

6. 補正の対象

明細書の「発明の詳細な説明」の欄。

### 7. 補正の内容

(1) 明細書第4頁第6行目、同第5頁第11行目、同第6頁第12行目及び同第17頁第13行目の「日本文」を「日本語文」に補正する。

(2) 明細書第10頁第20行目の「ユーザインタフェース部2」を「ユーザインタフェース部2」に補正する。

(3) 明細書第11頁第9行目及び同頁第11行目の「利用者要求解析部3」を「利用者要求事項解析部3」に補正する。

(4) 明細書第15頁第6行目乃至同頁第7行目の「(関連出願: 西山、東田「メニュー選択による定型文生成方式」)」を「(特願平1-272560号明細書)」に補正する。

代理人 弁護士 秋田収